

伝統の祭り

双葉苑のある小倉南区より、峠を越えると田川郡香春町です。町北部に位置するのが、採銅所地区になります。筑豊の名山である香春岳、特に三の岳からは銅鉱石が採れ、採掘から製錬加工まで行われ、そのことが地名の起源となりました。

採銅所地区が最も華やかだったのが奈良時代と言われ、ここで採れた銅で宇佐神宮の御神鏡を铸造、さらには宇佐神宮を通じて奈良の大仏建立にも重要な役割を果たしました。香春岳から採れる銅、さらにはここに住む帰化人の技術無くしては大仏の完成はなかったと言われるほどで、当時の日本を代表するハitek都市だったのです。この技術者集団が祀る神が古宮八幡神社で、利用者様と全国でも珍しい杉の葉葺きの神輿で有名な神幸祭を見学に行きました。



全国でも他に例を見ない杉の葉で屋根が葺かれた神輿。古宮八幡神社鶴我盛仁（もりひと）宮司と記念撮影



ふたばよもやま話（第五回）

～紫川～

双葉苑近くを流れる清流が紫川です。何とも優美な名前の川ですが、名前の由来については諸説あります。

- ①上流に友禅を染めるムラサキ草が自生していた説、②夕暮時に足立山が紫色に染まって川面に映えることによる説、③当時の小倉城主である細川忠興公が、小倉に来る前の居城、丹後国宮津城近くを流れていた紫川の名をそのまま付けたという説、④恋人である漁師の無事を毎日祈っていることを知らせるため、無事に帰ってくるまでむらさき色の藍染の木の実を流したとする説、⑤小倉南区蒲生の大興善寺近くの「紫」という名前の池を由来とする説など様々です。

個人的には、双葉苑近くの大興善寺山門前にあったという「紫の池」説を取りたいのですが、古歌に詠まれた池も道路拡幅により消滅、今は歩道に水がしみ出し、池の名残を伝えています。



鯉のぼりが泳ぐ徳力嵐山駅付近と、紫の池があったと伝えられる地

職員紹介コーナー
今回紹介する職員は、山内末美さんです。
山内さんは長年にわたり、施設美化、つまりクリーンキーパーとして活躍してくださっているかたです。
山内さんは徹底した仕事ぶりで、汚れがちな机の下にもぐってまでの熱心さです。しかし日ごろはやさしいお姉さんで、職員への小さな心遣いも忘れず、公私を問わずに頼りになるような、母なる存在です。



いつも掃除道具を手放さず、苑内清掃に努める山内さん



香春三の岳にある金鉱山坑道跡

今月の予定（6月）

ますゆき皮膚科回診

1日（木曜日）

石橋医院回診（毎月曜日）

5日、12日、19日、26日

健康体操（毎月曜日）

5日、12日、19日、26日

小倉北歯科回診（毎月曜日）

1日、8日、15日、22日、29日

ビューティヘルパー

21日（水曜日）

運動会

25日（日曜日）

生花

28日（水曜日）

花見（菖蒲、アジサイなど）

随時

【編集雑記】

▼皆さまは文化財と言えは何を想像するだろうか？古墳などが一般的に知られ、マスコミで報道されるような遺跡の発掘現場の一般公開には長蛇の列ができ、大人気である。▼数千年前の生活がそのまま土の中で保存され、まさにタイムカプセルと同じで、当時の生活そのものが我々の目の前に表れてくる。古代官道、当時の国道の発掘現場では、踏み固められた土の表面に、人々の歩いた足型や草鞋の跡も確認できる▼これら文化財は、「史跡」と分類され、古墳や古代の建物跡など、まさに文化財の「花形」である▼人々の生活にもっとも関係深いのが民俗文化財で、形のあるものを「有形民俗文化財」祭りなどに伝承されているものを「無形民俗文化財」と分類されている▼香春町採銅所の「古宮八幡神幸行事」は福岡県指定民俗文化財である。杉神輿自体は有形であるが、祭全体は古くより伝承されたもので無形民俗文化財なのだ。なお「神幸行事」とは特定の宗教祭礼ではなく、文化財としての行事の位置づけである▼本紙にあるように、香春町一帯では古代より銅精錬が行われてきた。これは当時の日本には無い高度な技術で、朝鮮半島から渡ってきた帰化人の技術であり、小倉南インター近くの高津尾遺跡も銅精錬関係で、田川一帯はもともと小倉南区の広大な範囲で製錬が行われていたようである▼久留米絣や博多人形の制作者は人間国宝と言われる。かつての生活の様子を今に伝えてくれる双葉苑の入所者様もまさに文化の継承者であり、「人間国宝」である▼物のない時代、さらには戦争という不幸な時代を乗り越えられてきた入所者様の知恵とパワーを学ぶ必要性を祭りを見ながら痛感した